



## Governor Message

### ロータリーに於ける奉仕

クラブ会長各位  
クラブ幹事各位

この号が出来上がる頃には難関であったクラブ公式訪問も一通り済ませていただいているかと存じます。81クラブを51回の例会に纏めさせていただき、酷暑の7月31日から始めました。とくに合同例会を余儀なくさせていただいた主幹クラブには大変なお骨折りをお掛けしました。いずれのクラブもそれぞれの信念と文化と誇りをお持ちになっていて素晴らしい体験をさせていただきました。いわばカルチャーショックの連続で御座いました。各クラブの会長・幹事さんはじめ会員の皆様にあらためてお礼申し上げます。また「百万\$の例会食」はことによると可成りの御迷惑をクラブにお掛けした事になったようにも思えます。ロータリアンの真心と友情に免じてご理解いただきたいと存じます。何処へ参りましても必ず検討課題になったのはやはりクラブリーダーシッププラン(以下CLP)でした。これは以下の理由で各クラブがCLPについて了解をしていないとクラブの今後の運営に遅れをとる可能性があるかと確信しているからです。

- 1) 今までにない、クラブの現状の分析(棚卸し)と計量的な点検が出来る。
- 2) 2年前から会長要覧はCLPに準拠したバージョンである。世界的な情報が理解できなくなる。
- 3) これに照らしてクラブの現状と次年度以降のビジョンを考えることでクラブ管理運営に対して連続性と全員の参加意識が出来る。
- 4) クラブ委員会機構の統廃合はあってもよいがそれよりも委員会活動の今日的再検討の方にチェックの目がほしい。

さて、クラブリーダーシッププラン(以後CLP)で提案されている問題点の一つが“奉仕プロジェクトの再評価”ではないでしょうか。ここで云う奉仕とはおもに社会奉仕と国際奉仕についてであります。前号でも申しましたが奉仕プロジェクトに職業奉仕について詳述されていないのは、これの軽視でも何でもなく職業奉仕、クラブ奉仕などロータリーに於ける本質的な方法論はクラブレベルの改善のチェックポイントであるCLPにて論ずることではないのです。あらためて今年4月に規定審議会ではRI理事提案として四大奉仕がRI定款(標準ロータリークラブ定款)に制定案07-29として採択されました。このRI理事会の立法提案、採択においては、日本からのRI直前理事重田政信氏の指導的役割によるものであることを記憶に止めたいと思います。(※制定案07-29は文末に記載)

奉仕プロジェクトを社会奉仕と国際奉仕に限って検討が求められているのには次のような問題点があるからであろうとおもわれます。一つには両方共に、ロータリーが対外的に展開する奉仕の方法論であり、真のニーズにあった奉仕が行われているかどうかと云うことと、既存の団体、行政等のプロジェクトに対して単なる協賛、支援、援助だけに終わっていないかどうかという点検が必要であろうと思われま。

つまりマンネリのまま漫然と続けられてはいないか、単なる資金提供の協賛に終わっていないかのチェックを時にはしてみようかと云っているのです。社会奉仕はクラブがその属する地域に対して行おうとする本当の必要性または必然性が認められる(ニーズが一致する)奉仕を探し出すことがなかなか難しい事なのであります。そこで必然的に各種の団体などから所望される協力金を提供することになってしまうのではないかと思われます。

ずっしりと重い市の奨学金が授与される際に、協賛としてロータリーと書いた5,000円の図書券を市長の横で奨学金一封の上に差し出した時の無力感は忘れられない事でした。こんな事ならば1名でよいかから“ロータリー奨学生”を独立して選定し奨学金を差し上げたかったと今でも思います。

本来ロータリーには極めて魅力的なプログラムが用意されています。社会奉仕部門ではロータリー地域社会共同隊(RC)、新世代奉仕プロジェクト(インターアクト、ローターアクト、ロータリー青少年指導者育成プログラム(RYLA)、環境保全、危機下の児童擁護、都市部の関心事項などがテーマと共に部門別資料、実例集等から学ぶことが出来ます。ロータリーは施すことではない。奉仕の量の問題でもない。クラブの実力に叶った奉仕の理念と質と汗であってほしいものです。

国際奉仕の部門も新しく奉仕をクラブで見つけたり開拓しようとする事は必ずしも容易な事ではありません。そのニーズを探することは、しばしばクラブの調査能力を超える問題に発展することになるであろうとおもわれます。それだからロータリーにはプロジェクトが用意されているのです。魅力的なプログラムは第一番に“青少年交換”でしょう。クラブによっては30年以上も続

## ガバナーメッセージ

### プロジェクトの方法論

国際ロータリー2760地区ガバナー 江崎 柳 節

けていて毎年世界の各地で多くのものを吸収した素晴らしい新世代が地域にうまれて行くことにロータリーのマジックを感じながら成果を続けているクラブも少なからずあります。提携先の海外クラブを持っている場合は相手のクラブの地域に求められるニーズが解れば援助してあげることは有意義なことであります。これは世界社会奉仕(WCS)と言われる今最も注目されているプログラムであります。他にはロータリー友情交換、ロータリーボランティアなどがあり国際奉仕委員会にお話をお聞き下さるとよいアイデアが提供されると思います。

ロータリー財団も魅力的なプログラムをそろえています。まず、いま当地区では急速に理解され関心を持たれているプログラムは“地区補助金”制度です。ここでロータリー財団の資金の流れについて骨組みを申し上げておきましょう。

2760地区の会員が寄進したロータリー財団寄付金は一括して“国際ロータリーのロータリー財団”に贈られます。寄付金には年次寄付金と恒久基金とがあります。3年後に年次寄付金のうちの50%が地区財団活動資金(DDF)として地区に返されてきます。残る半分は国際財団活動資金(WF)として世界的なレベルの教育的、人道的プログラムの活動財源として使われます。これも用途は各クラブにはっきりと報告されてきます。さて地区にはこのほかに“恒久基金”として会員が寄進している資金があります。これは恒久的財源として備蓄されるものですが、毎年これの運用益の50%がやはりDDFとWFに分配されて返還金に加算されます。

こうして得られたDDFは国際親善奨学制度、マッチング・グラント補助金、研究グループ交換(GSE)の助成金として使われますが、そのDDFの20%は地区補助金としてクラブの奉仕資金としてプロジェクトの計画書と共に地区の同名委員会で申請審査されクラブが受けることが出来ます。クラブレベルの奉仕活動が財源難に苦しむ今日、会長幹事殿には関心を持っていただきたい制度で御座います。その他特に海外クラブとの大型協同プロジェクトに対しては、マッチング・グラントという補助金制度がありますのでご研究下さい。ロータリー財団のプログラムには他に国際親善奨学制度があります。地域内の大学生、大学院生、職業上の研究を希望する人を発掘しクラブから地区に推薦して下さると近未来の指導的国際人をクラブで育成することが出来ます。GSEは今年もフランスのローヌ・アルプ・モンブラン地区と交換を致します。次年度はカナダになるかと思いますが若い専門家を交換してそれぞれの地区で専門分野に応じた固有の文化、制度、技術などを学ばせることが出来ます。人材を見つけて推薦して下さい。

奉仕は云うまでもなくロータリーの主目的です。これがない仲良し団体では今や高い志に燃える若いロータリアンをクラブにつなぎ止める事は出来ません。退会の原因、会員維持の困難な原因はいまでは社会情勢の悪化ではないと思われています。3大原因は①クラブに指導性がない。②クラブに魅力がない。③志をもって入ったがクラブに奉仕のプロジェクトがない。ということであるとRIは検証しております。ぜひ心したいところです。

奉仕はただ施すことではありません。“ロータリーの綱領”を思い出して下さい。理念や理想を示しているものではないことに気がつきます。ロータリーは実践哲学です。“飢えている人に魚を一匹差し上げればその人の飢えは満たされます。その人に魚を採る術を教えてあげればその人は一生飢えから救われます”。

\* 制定案07-29 標準ロータリー・クラブ定款に四大奉仕部門を含める件

提案者：RI理事会

標準ロータリー・クラブ定款を次のように改正する(手続要覧第231ページ)。

#### 第5条 四大奉仕部門

ロータリーの四大奉仕部門は、本ロータリー・クラブの業務の哲学的および実際的な規準である。

1. 奉仕の第一部門であるクラブ奉仕は、本クラブの機能を充実させるために、クラブ内で会員が取るべき行動である。
2. 奉仕の第二部門である職業奉仕は、事業および専門職務の道徳的水準を高め、あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深め、あらゆる職業に携わらる中で奉仕の理想を生かしていくという目的を持つ。会員の役割には、ロータリーの理念に従って自分自身を律し、事業を行うことが含まれる。
3. ロータリーの第三奉仕部門である社会奉仕は、クラブの所在地域または行政区内に居住する人々の生活の質を向上させるために、時には、他の人々と提携してロータリアンが行うさまざまな活動から成る。
4. ロータリーの第四奉仕部門である国際奉仕は、国際理解、親善、平和を推進するために、会員が行う活動から成る。このような推進は、読書や文通、さらには、他国の人々を助けるクラブのあらゆる活動やプロジェクトに協力することを通じて、他国の人々との文化、慣習、業績、願望、問題に対する認識を培うことによって行われる。